

令和4年度 学校評価

1 本校の学校評価のねらい

(1) 教育活動の点検と改善課題を明らかにする

- ・学校教育目標の達成のために本年度の成果と課題を明らかにし、来年度に向けて改善すべき点やその手だてについての共通理解を図り、今後の教育活動に活かす。また、保護者や児童に対してアンケートを実施することで、より客観的に教育活動を捉える。

(2) 特色ある学校づくり、開かれた学校づくりを進める

- ・教育活動の重点課題を評価することによって特色ある学校づくりを進める。
- ・学校は自らの教育活動を評価する姿勢を明らかにすることによって、家庭（地域）に理解され、支持される特色ある学校、信頼される学校づくりを進める。

(3) 学校・家庭・地域の一体化を図る

- ・学校・家庭・地域が、子どもの成長とともに関わっていくことで、子どもたちの豊かな心を育て、人間としての成長につながることの共通理解をもつ。
- ・家庭や地域の要望を把握し、評価結果を明らかにして学校・家庭・地域が一体となって学校教育のあり方を考えていくような意識を育てる。
- ・家庭の教育力を高め、学校と連携、協力していこうという意識を啓発する。

(4) 設置者へ学校に対する支援や条件整備等を働きかける

- ・評価の結果を学校設置者等に報告することにより、学校に対する支援や条件整備等の改善措置への働きかけを行う。

2 評価計画

期日	内容
11月下旬	自己評価の実施 児童アンケート・保護者アンケート・教師用アンケートの実施
12月	データ入力, 処理
	データ考察 →【自己評価欄（取組状況・成果・課題）】を記述 全校データと学年データを比較し、今後の【改善策】を学年毎に記述
1月10日	1月職員会議（学校評価）にて改善策の方向性を決定
2月 8日	第3回学校運営協議会 及び 学校関係者評価委員会 （学校運営協議会委員, 校長・教頭・教務） ・学校関係者評価の結果を追加記入
2月～3月	保護者への公表：学校だより及びホームページにて
	学校設置者（市教委）への報告

3 評価項目

昨年度の内容をベースに学校評価委員会において検討し、児童、保護者、教職員が同一の項目について教育活動について評価を行うこととした。これにより、3者の評価状況を比較することができ、改善に向けた取り組みの検討にさらなる効果が期待できると考えた。

本年度の学校評価における主な設問の領域と設問数は次のようにした。

1 学校経営について	設問 1～設問 4
2 学習指導について	設問 5～設問 9
3 生徒指導について	設問10～設問14
4 道徳等について	設問15
5 特別活動について	設問16～設問18

なお、各設問については、児童・保護者・教師の3者が回答しているものだけでなく、3者のうちの2者（児童と教師、保護者と教師）が回答しているものもある。

4 質問紙調査の回答状況と自己評価、および改善策

※ アンケート回答数

児童 310名（93%）、保護者 296名（89%）、教員 30名（100%）

※ 実施した自己評価結果から

以下、各評価項目についてアンケートの回答状況とそれをもとに行った自己評価及び評価結果を受けて立案した改善策についてまとめる。

なお、以下の回答状況表の数値は割合（%）で表示している。

回答状況は、左から

「よくあてはまる おおむねあてはまる あまりあてはまらない まったくあてはまらない」となっている。

また、この数値をもとに作成したグラフの色表示については以下のようにになっている。



(1) 領域 学校経営について

【項目1 楽しい学校生活について】

◎回答 教師・児童・保護者

1	教師	児童が楽しく学校生活を送れるように努めていますか	81	15	4	0	
	児童	学校生活は楽しいですか	72	22	4	2	
	保護者	あなたのお子さんは楽しく学校生活送っていると思いますか	77	19	4	0	

<① 自己評価>

3者とも肯定的な評価が90%以上であり、全体的には、児童が楽しく学校生活を送っていると思われる。しかし、「そう思わない」と回答している児童がいることは課題として受け止め、さらに工夫していく必要がある。

<② 改善策>

学級内での人間関係を良好に築けるよう、児童一人一人に目を向け、きめ細かい指導を続けていく。わかる授業・楽しい授業や目的を明確にした行事等を工夫していく。入学時前に保育園や幼稚園と連携を図り、実態把握に努め、入学後の指導に生かす。

【項目2 目標をもった学校生活について】

◎回答 教師・児童・保護者

2	教師	児童に目標を持たせて学校生活を送らせていますか	77	23	0	0	
	児童	あなたは、目標を持って学校生活を送っていますか	63	28	7	2	
	保護者	あなたのお子さんは目標を持って学校生活を送っていると思いますか	34	48	17	1	

<① 自己評価>

授業改善の一つとして、毎時間めあて（目標）を明確にした授業を教師も児童も行うように取り組んでいる。また、年度や学期の始めには「目標」を意識させる取り組みも行っている。そのため、教師と児童に肯定的な回答は多くなっているが、保護者から見るとまだ十分ではないと考えている割合が多いようである。

<② 改善策>

学校では短期的、長期的な目標を持たせているが、児童自身が日々の生活の中で意識できていないことも考えられる。各自の目標を意識して生活できるよう声掛けをし自覚させていくこと、学期初めに立てた目標を学期途中で振り返らせ目標への意識を持たせること等工夫していく。

キャリアパスポートを活用し、目標を立てそれに向かって努力できるよう支援していく。また、保護者にも学校の様子を伝える機会を増やしていく。

【項目3 安全な学校生活について】

◎回答 教師・児童・保護者

3	教師	学校は児童の安全が確保されるように教育環境を整えていますか	69	27	4	0	
	児童	あなたは、学校で安全に生活していますか	84	13	3	1	
	保護者	学校は、安全性が確保されるように教育環境が整えられていると思いますか	63	33	3	1	

<① 自己評価>

3者とも肯定的な評価が90%以上であり、概ね良好であるといえる。校舎が年数の経過で古くなっているところがあるので、そこは注意していきたい。4年後に大規模改修の予定もある。

<② 改善策>

今後も、定期的な安全点検に加え、交通指導も含めた安全指導、各種避難訓練、PTAでの通学路点検等、安全な教育環境を整えていきたい。

【項目4 学校からの情報提供について】

◎回答 教師・保護者

4	教師	学校は家庭に適切な連絡や情報提供を行っていますか	85	15	0	0	
	保護者	学校は、家庭に適切な連絡や情報提供を行っていると思いますか	66	27	6	1	

<① 自己評価>

教師・保護者ともに肯定的な評価が90%以上であるが、教師側の意識と保護者側の意識で多少のずれも見られる。

<② 改善策>

日頃の様子をお便りで伝える。コロナの状況にもよるが、保護者に学校に来てもらう機会を積極的に設ける等、今後も適切な情報提供と共通理解を図っていきたい。

(2) 領域 学習指導について

【項目5 学習の理解度について】

◎回答 教師・児童・保護者

5	教師	児童一人一人が理解できているかどうか気を配っていますか	84	16	0	0	
	児童	先生方は、あなたが理解しているかを気にかけながら授業を進めてくれますか	80	16	3	1	
	保護者	先生は、児童一人一人が理解しているかどうかを気を配っていると思いますか	68	28	3	1	

<① 自己評価>

3者とも肯定的な評価が90%以上であり、概ね良好であるといえる。少数ではあるが、児童と保護者に否定的な評価もあることを自覚し、より丁寧に子ども理解に努めていく必要がある。

<② 改善策>

分からない所を質問できるような雰囲気をつくっていく。

一斉指導で子どもが理解できているか観察するとともに、引き続き個別指導も丁寧に行っていく。

【項目6 学習に対する意欲について】

◎回答 教師・児童・保護者

6	教師	児童が意欲的に取り組む授業づくりをしていますか	83	17	0	0	
	児童	あなたは、やる気をもって授業に取り組んでいますか。	66	26	6	2	
	保護者	あなたのお子さんは、意欲的に授業に取り組んでいると思いますか	51	42	8	0	

<① 自己評価>

3者とも肯定的な評価が90%以上である。校内研究でも一人一台タブレットの有効活用を取り上げ、積極的な使用も含め、楽しい授業、分かる授業に取り組んでいる。まだやる気を引き出せていない児童がいることを自覚し、更なる授業改善を進めていきたい。

<② 改善策>

興味関心を高めるような授業を考え、工夫していくことで、分かる授業を実現していく。子どもをほめ、スモールステップで達成感を与えるような活動を行う。課題を明確にしてTT授業を行う。

【項目7 地域の教育資源について】

◎回答 教師・児童・保護者

7	教師	地域の人材や環境を、教育活動に生かしていますか	46	42	13	0	
	児童	校外に出かける学習や地いきの人に教えてもらう学習は楽しいですか	85	12	3	1	
	保護者	地域の人材や環境が教育活動に生かされていると思いますか	37	48	16	0	

<① 自己評価>

コロナ禍ではあるが、徐々に地域の見学に出かけたり、地域の方を招いての授業を展開したりしていることで、児童の評価は高い値を示している。しかし、教師および保護者には、まだ十分でないという意識がみられる。

<② 改善策>

コロナ等の状況を見ながら実施時期を調整するような工夫も行う。地域人材を活用したようなときは保護者にも情報を提供していくようにする。

校外学習で、保護者に見守りを協力してもらうような要請も続けていく。

【項目8 学力向上について】

◎回答 教師・児童・保護者

8	教師	児童の学力は向上していると思いますか	38	58	4	0	
	児童	あなたは、勉強がよくわかりますか	66	27	5	1	
	保護者	あなたのお子さんの学力は向上していると思いますか	50	39	10	0	

<① 自己評価>

学力は一朝一夕に伸びるものではない。毎日の積み重ねが徐々に力となって表れてくるものである。肯定的な評価は3者ともに90%以上ではあるが、日々の積み重ねと努力を大切にしていきたい。

<② 改善策>

宿題内容の工夫、放課後や休み時間を利用して、個別対応を行う等、今後もきめ細かな指導に努めていく。

【項目9 家庭学習について】

◎回答 教師・児童・保護者

9	教師	計画的な家庭学習の手立てをしていますか	54	46	0	0	
	児童	あなたは、家庭で毎日勉強していますか	69	21	6	4	
	保護者	あなたのお子さんは毎日、家庭学習をしていますか	58	28	13	1	

<① 自己評価>

家庭学習の定着に向け、宿題や自学の工夫に加え、一人一台タブレットを活用しての家庭学習等の取組を進めている。多くの児童に家庭学習の定着が見られる一方、課題をもっている児童や保護者もみられる。家庭学習の定着をめざし、手立てを工夫していきたい。

<② 改善策>

お互いの自学の取組を紹介し合い、学習意欲を高めたり、自身の学習の参考にさせたりする。また、自学をさせていることを保護者にも啓発していく。必要に応じて学年だよりや連絡帳等で呼びかけをしていく。

家庭で学習をしていないと答えている児童の中には児童館で済ませている児童も含まれているため、質問の言葉を改善する。

(3) 領域 生徒指導について

【項目10 あいさつについて】

◎回答 教師・児童・保護者

10	教師	児童のあいさつはよくできていると思いますか	8	62	27	4	
	児童	あなたは、あいさつができていますか	70	24	4	2	
	保護者	あなたのご家庭では、積極的にあいさつをしていますか	65	29	6	0	

<① 自己評価>

児童・保護者は、ともに90%以上が肯定的評価である。しかし、教員は課題があると考えている割合が多い。教員の考える「あいさつ」と児童の考える「あいさつ」の基準がずれていることも考えられる。

<② 改善策>

地域でもあいさつができるよう、日頃から声をかけていく。

どのようにあいさつをすればできているとっていいのか、どんなあいさつをめざしていくのかを児童と教員、そして教員同士でも共通理解を図り、取り組んでいく必要がある。

【項目11 相談や悩みへの対応について】

◎回答 教師・児童・保護者

11	教師	学校は、児童や保護者からの相談に適切に対応していると思いますか	73	27	0	0	
	児童	あなたは、こまったことやなやみなどがあつたとき、先生方にそうだんできますか	55	26	12	6	
	保護者	先生は、相談事や悩みなどに、適切に応じてくれようとしていると思いますか	73	23	4	1	

<① 自己評価>

教師・保護者ともに肯定的な評価が90%以上である。しかし、約20%の児童が、否定的な評価となっている。アンケートをとる等の方法で補ってはいるが、先生に相談しやすい状況を作り出していくことが課題である。

<② 改善策>

高学年になると大人に言えないこともでてくる。教師と児童がより密な関係を築く努力をするとともに、子ども同士の横のつながりを強くし、良好な関係を保つことも大切にしていく。

日頃から様子を見て気になった時は、積極的に声をかけていく。また、学年の先生全員で関わることで、相談先を増やしていく。

【項目12 いじめに対する取組について】

◎回答 教師・児童・保護者

12	教師	いじめなどない楽しい学級づくりに努めていますか	84	16	0	0	
	児童	あなたは、友達と仲良くすごすことができますか	79	17	3	1	
	保護者	先生は、いじめなどない楽しい学級づくりに努めていると思いますか	72	24	3	0	

<① 自己評価>

3者とも肯定的な評価が90%以上であり、概ね良好であるといえる。「いじめは絶対に許されない行為である」という共通理解のもと指導を行っている。ただし、100%見てとることは難しいため、引き続き家庭とも連携を図りながら、いじめのない楽しい学校づくりを基本に早期発見・早期対応に努めていきたい。

<② 改善策>

引き続き子供たちと関わる中で、一人一人の様子を観察する。また、道徳の授業等で全体に指導することに加え、機会をとらえて個別に指導することも大事にしていく。アンケート結果をもとに丁寧に対応していく。

【項目13 個に応じた生徒指導について】

◎回答 教師・児童・保護者

13	教師	学校は、個に応じた生徒指導に力を入れていると思いますか	52	48	0	0	
	児童	先生方は、あなたを良くしようと指導してくれていますか	80	17	3	1	
	保護者	先生は、学級で、みんなが気持ちよく生活できるような指導に力を入れていると思いますか	74	22	3	1	

<① 自己評価>

3者とも肯定的な評価が90%以上であり、概ね良好であるといえる。教師の「そう思う」の割合が低いのは、本当の姿をきちんととらえられているのだろうかと自問し、今後もさらに寄り添っていこうという気持ちの表れであろう。

<② 改善策>

今後も一人一人が大切にされる学校づくりに努めるとともに、問題行動等の早期発見、早期対応に心を掛け、保護者はもちろん、関係機関とも連携を図りながら生徒指導を行っていく。

【項目14 児童理解について】

◎回答 教師・児童・保護者

14	教師	児童のことをよく理解していると思いますか	50	46	4	0	
	児童	先生方は、あなたのことを、わかってれていると思いますか	74	21	3	2	
	保護者	先生は、あなたのお子さんのことをよく理解していると思いますか	69	28	2	1	

<① 自己評価>

3者とも肯定的な評価が90%以上であり、概ね良好であるといえる。教師の「そう思う」の割合が低いのは、項目13と同様であろう。わかってもらっていないと感じている児童や保護者がいることは課題として受け止めたい。

<② 改善策>

声掛け、言葉掛けをして丁寧な指導を心がけていく。

児童の話丁寧に聞いてあげる。また、話を聞ける環境（ゆとりも含めて）をつくっていく。

(4) 領域 道徳等について

【項目15 豊かな心の育成について】

◎回答 教師・児童・保護者

15	教師	人の生き方について考えさせる等、「まごころ」(命を大切にす・信頼し合う)を育てようとしていますか	50	50	0	0	
	児童	あなたは、正しく生きることについて考えたり、やさしい心・思いやりの心をもったりして生活していますか	71	23	5	1	
	保護者	学校は、人の生き方について考えさせる等、豊かな心を育てようとしていると思いますか	52	40	7	0	

<① 自己評価>

3者とも肯定的な評価が90%以上であり、概ね良好であるといえる。授業においても、考え議論し合う道徳の実現に向け、授業改善を続けているところである。道徳の授業を中心に全教科、日常生活のあらゆる場面で、継続的に指導していきたい。

<② 改善策>

道徳の授業をさらに充実させていく。

日常生活の中で気づいたときに話題にして取り上げ、学級全体で考えていく機会を設ける。

(5) 領域 特別活動について

【項目16 環境整備活動について】

◎回答 教師・児童

16	教師	校内の環境整備に積極的に取り組んでいますか	54	46	0	0	
	児童	あなたは、学校をきれいにしようと取り組んでいますか	81	16	1	2	

<① 自己評価>

教師・児童とも肯定的な評価が90%以上であり、概ね良好であるといえる。真面目に掃除に取り組む児童が多く、教師もともに取り組んでいる。

<② 改善策>

真面目に頑張っている姿を捉えて、その都度肯定的な評価を行い、更に意欲を高めていく。掃除の時間以外に落ちているごみを進んで拾う等、日常的な取り組みにも力を入れていきたい。

【項目17 学校行事について】

◎回答 教師・児童・保護者

17	教師	運動会などの学校行事が充実するように努めていますか	77	23	0	0	
	児童	運動会などの学校行事は、楽しくて、満足できるものですか	81	14	4	2	
	保護者	運動会などの学校行事は、あなたのお子さんにとって楽しく充実していると思いますか	78	18	3	1	

<① 自己評価>

3者とも肯定的な評価が90%以上であり、概ね良好であるといえる。コロナ禍の中で出来ることを模索し、その中で工夫したり、目標を決めて努力したりする子供たちの姿を見ることができている。

<② 改善策>

保護者の声も参考にしながら、絶えず行事を工夫していく意識で取り組む。

【項目18 児童会活動について】

◎回答 教師・児童

18	教師	児童会活動が充実するように努めていますか。	54	46	0	0	
	児童	児童会活動に、いっしょけんめい取り組んでいますか	75	21	3	2	

<① 自己評価>

教師・児童とも肯定的な評価が90%以上であり、概ね良好であるといえる。項目17と同様、方法ややり方を工夫しながら、できることに取り組んでいる。

<② 改善策>

コロナの影響で児童会活動がかなり制限されている。状況を見ながらWithコロナで、できることを増やしていく。

5 学校関係者評価委員会における話し合いから

(1) 令和4年度 学校関係者評価委員会について

- ① 期日 令和5年2月8日(水)
- ② 参加者

学校運営協議会委員9名、学校側から3名(校長、教頭、教務主任)

③ 内容

- ・事前に学校評価の結果と自己評価・改善策を委員の皆様へ送付しておいて、当日、各項目についての

ご意見をいただきました。

(2) 学校関係者評価委員（学校運営協議会委員）から出されたご意見

《学校経営に関して》

【項目 1・2 に関わって】

- ・目標をもって生活するという事は、低学年生には少し難しいような気もする。低学年のうちは学校が好きである、または、楽しく学校に行っていることが一番である。

《学習指導に関して》

【学習指導全般に関わって】

- ・どうして学習する必要があるかということをしちゃんと理解させたいとよい。あわせて、毎日の予習、復習などの積み重ねもとても大切であることも理解させ、取り組ませるとよい。

【項目 8 に関わって】

- ・補習として放課後や休み時間を利用して特別指導をすることは良いが、そのことが原因でその子がいじめられるようなことがないように気を付けてほしい。

【項目 9 に関わって】

- ・家庭学習に関する改善策はとても良い。家庭学習を頑張っている子を全体で紹介する等して、さらにやる気を高めていくことも大切であろう。

《生徒指導に関して》

【項目 10 に関わって】

- ・児童のあいさつに関しては、他の学校と比べると少し劣るように思う。
- ・どんなあいさつをめざすのかという事に関わって、やはりきちんと立ち止まって、相手の顔を見てあいさつすることは大切なことである。
- ・あいさつには、相手との人間関係も影響するので、友達とは歩きながらあいさつしてもいいが、場所や相手に合わせたあいさつをすることが大事であろう。
- ・家庭でのあいさつも大事である。家庭であいさつができていないと外でもあいさつはできないのではないか。先生と児童だけでなく、家庭とも共通理解を図り、あいさつ運動をすすめていくとよい。
- ・教育を考える会等で、親も子どもと一緒に「あいさつ」「礼儀」について学ぶ機会があるとよい。
- ・あいさつに関しては、上級生が下級生にお手本を見せることも大事である。そうすれば学校全体が自然と良くなるのではないか。

【項目 11 に関わって】

- ・困ったことや悩みを先生に相談することに否定的な子が 20%（約 60 名）いることが気になる。先生方も子どもと接する技術を磨いて、相談に応じてほしい。また、高学年になると先生以外に相談する子も増えるのかもしれないので、質問項目を「相談できる人がいますか」と変えるという方法もある。先生でなくても相談できる人がいることが大事である。

【項目 14 に関わって】

- ・子どもへの言葉がけに関しては、今はちょっとした発言も不適切発言と言われてしまうことがある。言葉がけは大事だが、注意する必要もある。

《道徳等に関して》

【項目 15 に関わって】

- ・改善策に書かれていることを大いにやってほしい。期待している。

- ・コロナ影響もあり近年不登校の子どもが増えている。原因の上位は、無気力、不安、自己肯定感の欠如と言われている。これは、乳幼児期からの影響も大きい。改善するには、実体験を含む活動を多く取り入れていくことも有効である。学校でも実体験を含む活動を多く取り入れてほしい。

《特別活動に関して》

【項目 16 に関わって】

- ・三村小にはゴミが落ちていない。
- ・掃除や環境整備に真面目に頑張っている子がたくさんいる。その姿を捉えて、その都度肯定的な評価を行うことがとても大事である。肯定的な評価をたくさんして伸ばして行ってほしい。先生も家庭でもそれを意識して取り組んでいくとよい。
- ・1, 2年生のトイレのスリッパを全員分そろえている子がいた。そうやって頑張ってる子が何人もいてすばらしい。

【項目 17 に関わって】

- ・三村小児童の体力の低下が心配である。昔は競歩大会があった。そういう大会があるとそれに向けて取り組むので、体力の向上にもつながる。
- ・三村小に限らず、山梨県は車社会であるため全国に比べて体力が低いのはうなずける。昔は朝の3分マラソンがあったが、そういう取り組みも良いのではないか。また、体力作りに励んでいる家庭もあるので、家庭でも取り組みを考えられるとよい。
- ・読書もそうだが、一度楽しいと思うと続くものである。読書と同じように体を動かす楽しさを知り、続けていくことを大切にしてほしい。

《その他》

- ・保護者へのお知らせ等をメール配信することに賛成である。紙はまぎれてしまうことがあるし、子どもによっては渡し忘れることもある。紙や印刷代もばかにならない。徐々に変えていく方向でよいのではないか。
- ・運動会が台風シーズンにぶつかるため、他の時期がよいのではないか。10月は保育園や幼稚園との関連もあり、難しい。半日開催でよいという保護者の考えも多く聞くので、それであれば、春に開催という方法も検討してもよいのではないか。
- ・下級生の下校はまだまだ心配である。引き続き下校指導をするとともに、地域の大人が気づいたら注意や指導ができるとよい。しかし、最近では地域でも子どもに声をかけづらい雰囲気がある。具体的に危ない場面を見たらその場で注意や指導することが有効であり、積極的に注意したり、見守ったりする姿勢ができるとよい。あわせて、地域で良いことをしている子がいたら、ほめてあげたり、学校に伝えたりしていきたい。
- ・体力の向上とも関連するが、学年によって遊ぶ場所が決まっていて低学年はグラウンドでサッカー等ができないようだが、曜日を決めたり、場所を決めたりして低学年でもグラウンドを駆け回って遊べるようにすることを検討してはどうか。
- ・家庭でも体力向上や肥満防止の取り組みができるとよい。
- ・幼保小の連携に関わって、幼稚園や保育園との連携も大切である。現在も情報交換は行っているが、入学前に小学校からも園に参観に行ったり、入学してから園から学校に参観に来てもらったりするような活動を行っていくとよい。